

単
元
名

～かたちあそび～

ずけいを見つけよう

教科書出版社名 (東京書籍)

○ 小学校 (1) 年 教科等 (算数)

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

(教科等で付けたい力)

身の回りにあるものの形について、基本的な立体図形の特徴や機能をとらえ、立体図形についての理解の基礎となる感覚を豊かにしながら、形について学ぶことの楽しさを感じる経験を重ね、図形に対する関心を深める。

(学校図書館等の活用で付けたい力)

取得した情報をもとに調べる活動を通して考えを深めたり広げたりする力。

○ この単元における学校図書館を活用した情報活用能力の育成に向けて

- 情報収集…図書資料を活用し、箱の形や筒の形などがどんな所に使われているか調べる。
- 整理・分析…調べたことをワークシートに書き込み、気づいたことをまとめる。
- まとめ・表現・発信…まとめて気づいたことを発表する。

学習の展開 (全6時間)

第1次 3時間	身の回りの具体物から形を抽象し、立体図形の特徴を知る。 立体図形を構成する面の形に着目し、平面図形である丸、三角、四角などを見出し、その形を写して絵を描く。
第2次 (本時) 3時間 ☆	図書資料から立体図形を見つけ、機能や特徴を調べ、生活の中の工夫について考える。 立体図形に親しむ。 (形の特徴や機能をとらえ、作りたいものを決めて制作する)

(本時4 / 6時)

☆学校図書館等活用(本時)の学習

本時のねらい
学習してきた立体図形が、図書資料の中から学習した立体図形を見つけ、生活の中での工夫について調べる。

学習展開

時間(分)	主な学習活動	指導上の留意点
3分	1. 学習してきた図形について復習する。	・学習してきた流れを振り返らせる。
	立体図形が生活に生かされていることを見つけよう。	
10分	2. 紹介された本から既習の形を見つける ・図解絵本『東京スカイツリー』(モリナガ・ヨウ ポプラ社)の絵本を使用し、生活の中に多くの立体図形があることに気づく。 ・『タイヤのひみつ』(大石 容子 学研)で、タイヤが筒の形であること、形の機能が生かされていることに気づく。	・図書資料の中から、立体図形を見つけ、その形が生かされていくことに気づかせる。
30分	3. 図書資料の中から既習の形をさがし、生活に生かされている工夫について考える。 ・ワークシートに記入する。 (見つけた形、どんなところに利用されているか、工夫など) ・ワークシートをもとに気づいたことを伝え合う。	・探するのが難しい児童には、付箋をつけた資料を用意しておく。
2分	4. 今日の学習を振り返る。	

図書館活用ポイント

図書館活用ポイント

